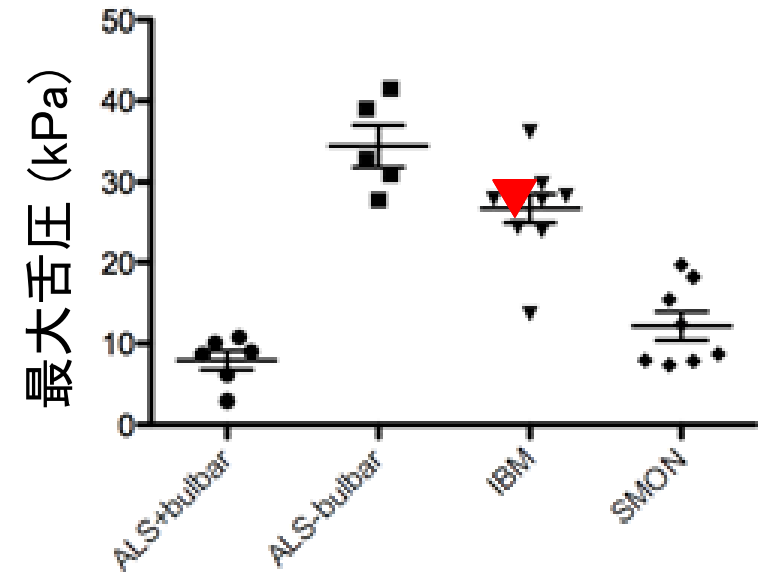
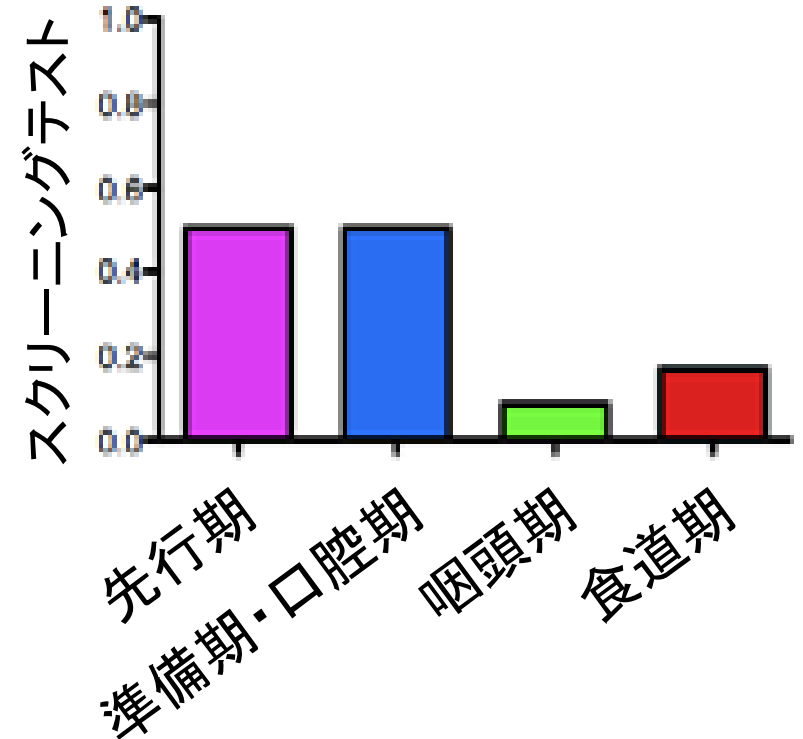


# IBM症例

# 結果(3) ~嚥下造影検査~

I. 第1期 口腔期		運動について	鼻腔について	口腔外流出	無	有
a. 側面				分泌嚥下	無	有
舌運動	3 2 1 0	0	1 2 3	喉嚻流入	無	有
口腔内滞留	0 1 2 3	0	1 2 3	舌運動 不随意	無	有
口腔内滞留時間						
b. 正面						
舌運動の左右対称性	0 1 2 3					
II. 第2期 咽頭期						
a. 側面				嚥下反射の優劣性	(正) 初期, 中期, 遅期	
軟口蓋運動	3 2 1 0			嚥下に対する反応	明反射 (正, 初期, 中期, 遅期)	
舌根運動	3 2 1 0					
舌骨運動	3 2 1 0					
喉頭運動	3 2 1 0					
喉頭閉鎖	3 2 1 0					
喉頭蓋	3 2 1 0					
喉頭蓋運動	3 2 1 0					
上食道開口閉鎖	3 2 1 0			食道入口部形状		
梨状窩の滞留	0 1 2 3					
梨状窩の滞留時間						
誤嚥	咽頭上昇前 上昇中 静止時 嚥合 (0 1 2 3)					
吸入	無					
喉頭閉鎖時間						
b. 正面						
梨状窩の形(嚥下後)						
梨状窩滞留	0 1 2 3					
梨状窩通過の左右差	0 1 2 3					
喉頭蓋運動	3 2 1 0					



口腔期: 正常  
 咽頭期: 反射惹起良好  
 舌根運動は比較的良好  
 咽頭運動波がなく、梨状窩に多く残量  
 リキッドで喉頭侵入から誤嚥

運動について  
 3: 正常  
 2: 中等度障害  
 1: 軽度障害  
 0: 不動  
 鼻腔について  
 3: 完全に鼻閉  
 2: 鼻閉  
 1: やや鼻閉  
 0: 正常  
 嚥下について  
 1: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 2: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 3: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 4: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 5: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 6: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 7: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず  
 8: 嚥下時に喉頭が十分に閉鎖されず